

病院機能再編成問題について」と題する講演が、スライドも使いながら行われました。

金川氏は、自治体病院は地域において、①地域に不足している医療に積極的に取り組む。②地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献するという使命と、①地域医療の中核としての役割。②地域の高度・先進的病院としての役割。③不採算医療や政策・行政的医療を担う役割。④特殊医療を行うセンター的な役割。⑤僻地などで医療の均等保障を提供する役割。⑥医療従事者の教育機関としての役割。という役割をもっているということを説明しました。

自治体病院を取り巻く情勢として、国は医療政策として総医療費抑制策をとり、そのために患者の受診抑制と病院数・病床数の削減を進めている。

そうした中で自治体病院は累積欠損金(赤字)と医師不足が深刻になっている状況がある、これは青森県全体を見ても西北五地域でも同じことが言えるということです。

次に西北五地域保健医療圏自治体病院機能再編成計画について以下のように説明しました。自治体病院機能再編成計画とは①恒常的な累積赤字と慢性的な医師不足を解消することを目的に、青森県が6つの2次医療圏ごとに基本計画を策定②広域連携によるサテライト方式(中核病院と後方支援病院・診療所の連携・機能分化)を基本とする規模縮小(スケールダウン)であるとし、西北五圏域における自治体病院機能再編成計画は、

基本理念として、地域がひとつの病院となって地域住民がより満足できる、より良い医療サービスを提供する(心豊かに安心して暮らせる地域社会づくりをめざして)をかね、基本的な考え方として①圏域全体で地域医療を支えていくため、6市町を構成員とする広域連携体制を構築する。②圏域内で脳卒中、癌および心筋梗塞などの一般的な医療を完結させ、地域医療の底上げを図る。③圏域内に新たに救急医療や高度・専門医療を担う中核病院を創設し、周辺医療機関は中核病院との密接な連携のもとに初期医療を中心に在宅医療を含めた地域住民の医療ニーズに対応する。をかねている。

このことによって地域医療はどう変わるかということについては、

改善点として○救命救急センターなどの設置により、圏域内での医療の完結が可能となる。

改悪点として○診療所化される地域の医療の質の低下。

○郊外に建設される中核病院までの交通手段(病院が市民生活から遠ざかる)。

○役割分担による患者の搬送。

○病床数不足(現在より228床減少)

などがあることが明らかにされました。

最後に「地域医療を守る住民の会」結成と住民運動について説明し、「いつでも、どこでも、誰もが、安心して医療を受けることは住民みんなの願いです。西北五圏域のいのちと健康を守るため、地域住民の医療要求に応

えられる自治体病院の存続・拡充をさせる運動を進めます」という基調に基づいた「西北五地域医療を守る住民の会」の結成と主な活動について説明しました。

セミナーの参加者数は実質で58名、二日間のべ参加人数は98名でした。宿泊した人は31名。交流会にはリレートーク参加者も3名参加し、33名でした。

《参加者の感想から》

①プログラムの中で印象に残ったこと、または全体の感想。

○日常生活、仕事、運動と限られた世界で物を見ていたことを強く感じました。地域に今回発表された素晴らしい事例、素晴らしい人たちがいることをたくましく思いました。「広い視野でものを見て、地域(地元)で活動する」、このことが強く印象に残っています。(51歳 男)

○記念講演:大学院生と思えない参考になり考えさせられることでした。

リレートーク:4人共特徴ある取り組みのお話よかったです。

小林さんのお話:憲法の大切さ(特に9条を)改めて知りました。

金川さんのお話:病院の実体、問題点を知ることができました。(80歳 男)

○自治体病院の統廃合問題についての報告は、とてもわかりやすく勉強になりました。また地方自治、住民運動において何が大切

なのか、どう進めていけばいいのか、大変参考になりました。金川さんの人間性も素晴らしいものがあると感じました。(47歳 男)

○リレートークでの貴重な話、これ職場また組合活動に私たちが活かすようにしたい。

(42歳 男)

○ぜひ、津軽鉄道のストープ列車に乗ってみたいです。(34歳 男)

○成田さんの講演の中で、「おいしい学校」の話が印象に残った。

金川さんの話は、とてもよくまとまっていたわかりやすく、労働組合と地域運動について本質をつくお話だったと思います。(32歳 女)

○記念講演もリレートークも、教えられて楽しかった。講演も良かった。元気をもらった。ありがとうございます。(68歳 男)

○小林氏の「憲法を暮らしの中に生かそう」を聞いて、9条改悪に反対する運動は、国民の最大公約数をどう確保していくかの運動である。現在ある憲法に違反しているだろうと思われることも、その本質をとらえながら、相手の立場を理解して話し合うことの必要性を知った。

今やらなければならないことは、国民の多数が9条改悪に反対していると、意思が表に出ることの必要を感じた。(61歳 男)

○充実した中味でした。

第1日目、トーク、地域のこれからのイメージにつながった。手をつなげるきっかけ

を得た。

弘前大学の調査研究、若手がとりくんでいること、すばらしい。地域に根ざした研究は多くの人から歓迎されると思う。その地域のプラス面を見つけることは、多くの住んでいる人たちをはげますことになると思う。

第2日目、小林洋二氏の講演、今の情勢をふまえ私たちの方向を示すものとなりました。

地元の医療を守るとりくみ、心意気を感じさせられた。(65歳 女)

○2日目しか参加できませんでしたが、小林氏の憲法概論と、金川氏の実践報告がピタリ組み合わせさせて素晴らしい企画でした。(61歳 男)

○2日目だけ出席しましたが、憲法の話、活動の持ち方、(姿勢)等、大いに心に残るものがありました。(44歳 男)

○リレートークでそれぞれ地域でがんばっている努力に胸を打たれました。

講演、地域の資源を認識する実践報告について勉強になった。

憲法を生かすこれからの運動に役立てていきたい。一致点を大事にして。(58歳 男)

○弘大と鯉ヶ沢町との協定。

リレートーク、各地のとりくみ。(62歳 男)

○小林先生の話聞き、勇気をいただきました。ありがとうございました。(46歳 男)

②セミナーの運営についての意見、要望。

○県レベルのセミナーなので、参加人数がもう少し多くなるようなとりくみを要望します。(51歳 男)

○事務局の方々の苦勞に改めて感謝します。(80歳 男)

○ぜひまた参加したいです。(34歳 男)

○2日目しか参加できなかったの、すみませんでした。(61歳 男)

○はじめて地元で実行委員として参加しましたが、よかったと思っています。

たくさんことを学び取ることができました(各参加者)(とりくみ方)運営など。

1日2000円、2日で3000円は女性にとっては負担が大きいように感じました。

参加者、女性が少ないこと。(さらに泊まるとなるとなかなかです。)もう少し地元で呼びかけをひろげたかった。

もっと女性、青年の参加を多くしたいものです。(65歳 女)

○分科会も今後取り入れたらどうか。(58歳 男)

○チーム単位での話し合いの時間もほしかった。(46歳 男)

③今後取上げてほしいテーマや企画内容。

○今回の企画、テーマは良かったです。特別要望はありませんが、次回に大きな期待をしています。(51歳 男)

○同じ内容でも継続、繰り返しが大切なのか

「おいしいごはんを作る会の現状と展望」について、おいしいごはんを作る会の目的はボカシ肥料を使用、土づくりの基本を徹底することで、病害虫に強い米づくりに努める、消費者に「健康・新鮮・安全」なおいしい米を提供し、併せて生産者の営業・生活の向上を図ることであり、そのためアイガモ農法による無農薬の栽培を柱に、木造農協の米を多様なニーズに対応できるよう生産体制、販売体制を整備しているなどと話していました。

その後、会場からのいくつかの質問や意見に対して、4氏は補足発言も含めて語っていました。



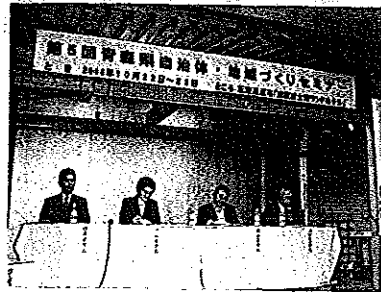
第2日目は午前9時から全国革新懇代表世話人の小林洋二氏による「憲法を暮らしの中に生かそう」と題する講演が行われました。講演の中で小林氏は、「憲法を暮らしの中に生かそう」と提唱し、実践したのは嵯峨川京都府知事であったことを明らかにし、嵯峨川知事が(7期28年)が実践した内容は、「暮らしを守る地方自治、国の悪政に対する防波堤」の役割を果たしたと、国の悪政が全国の自

治体を財政危機に陥れたときに、財政再建の困難な時期を経る中で京都府職労は自立再建に協力し、「府民のためにこそ働く」という民主的自治体労働者論を全国ではじめて打ち出したこと、また今回の選挙で与党は圧勝したとはいえ、49%の支持で3分の2をとっている、これからは増税、憲法「改正」へと突き進むことは間違いないが、郵政でさえ国民の支持は49%にすぎなかったのに、まして憲法で国民過半数を獲得する展望は改憲派にはない、改憲の最大のねらいは戦争をする国にすることであり、アメリカとともに集団的自衛権を行使できる国にすることである、憲法25条をはじめ、国民の暮らしを守らず新自由主義国家に変えることを狙っているものであることを解明しました。小林氏は最後に結びとして、民主主義と暮らしの土台は地方自治である。地方自治を大切にしないで日本の将来はないということを強調していました。



午前10時半から西北五地域医療を守る住民の会事務局長の金川佳弘氏による「自治体

まちづくり, ④人材育成, ⑤学術などが柱になっている。」とし、「地域の豊かさを共有しよう」と提言しました。



そのあと午後3時半から、《地域づくり・街づくりを考える》というテーマで、地域でそれぞれ創意ある取組みをしている4氏によるリレートークが行われました。

①鶴田町農業法人(有)津軽ぶどう村の須郷貞次郎氏は「スチューベンについて」、スチューベン種ぶどうの生産は青森県が全国の8割を占めていること、その中でも鶴田町は県内6割で、11月以降の輸入ぶどう中心の中で、唯一国産ぶどうが出荷できる地域であること、スチューベンの特徴は貯蔵性にすぐれていることや甘さが他のぶどうの中でも群を抜いていることなどを説明し、「安心」で「おいしい」「健康にも良い」スチューベンの栽培、出荷のために工夫を重ねていることなどを報告しました。

②立佞武多の館館長の岩谷勇幸氏は「立佞

武多」について、五所川原の歴史を学ぶ中で、明治の時代にあれだけの立佞武多をやっていることに感動した。平成8年に立佞武多をやったが、素晴らしい方々と五所川原に住んでいるということを実感したし、誇りをもっている。立佞武多の館ができてから、この町で住みたいという人は90%になった(以前は40%ぐらいだった)。年間40万人ぐらいの人が見に来る。地域おこしのためにも役立たいなどと強調しました。

③津軽鉄道株式会社の渋谷房子氏は「イベント列車の取組みと展望」について、かつて金木・中里間は津軽森林鉄道が通り、津軽半島のヒバを積み出す拠点としてにぎわっていたが、昭和5年に五所川原と中里を結ぶ「津軽鉄道」が開通し、沿線に住む人たちの交通手段として利用されてきた。その後、昭和49年をピークに輸送人員が減ってきている。そこでイベント列車を企画し、観光客を集めるために一役かっている。冬期間は1日2往復、客車にダルマストープをつける「ストープ列車」、夏は「風鈴列車」、秋には「鈴虫列車」を走らせ、津軽の四季を彩る風物詩となっている。また乗車券と絵葉書が一体になった「絵はがきっぷ」の販売など工夫をしている。会社自体が博物館のようなもので、地域の資源になれるのではないかなどと報告しました。

④木造町農協営農販売課の野呂淳也氏は

なアーと。(80歳 男)

○八戸の時の「朝市ツアー」のようなオプションがあれば楽しい。(32歳 女)

○地方に住んでいる自分たちの方向をつかみたい。

革新自治体の首長のとりくみを学びたい。

地域の人と人とのつながりをつくる、つくり方(私たちの側からネットワークづくり)(65歳 女)

○「自立する町づくり」—原発半島化する下北など、自治体は存亡の危機の中にあります。(61歳 男)

○自衛隊について、北朝鮮のような不法国家もあるので、強い力を発揮すべきだ。自民党でないとは動かないという考えの人もいるようだが。(44歳 男)

○地域の経済問題(拡大と鯨ヶ沢協定)等について、特に若者の仕事の対策があればいい。(62歳 男)

○憲法一本。深め合いたい。(46歳 男)

冊子

「県民から見た青森県・自治体の財政分析と今後の方向」を発行

青森自治研設立5周年記念として、標題の冊子を発行しました。

会員を中心にして、これまで『住民と自治』

や『季刊 自治と分権』などに掲載されたもの(一部は『会報』でも紹介)をまとめたものです。会員には全員にお配りしましたが、若干の残部については、有料で頒布することにします。読后感など感想をお寄せいただければ幸いです。

八戸における自治研活動

この間の八戸における自治研活動について、会員の畑中廣志氏から原稿が寄せられましたので、以下掲載します。

昨年の10月鮫町シーガルホテルで「第4回自治体セミナー」が成功し、三八地域での今後の自治体問題研究の発展のために、年二回くらい会合をもっていくことにしました。8月の30日、自治体問題研究所の竹下事務局長が八戸市に立ち寄りという情報が入りましたので、松田勝氏と相談し、またとない機会だから是非講演を企画することになりました。当面、給食センター職員など自治体関連職員の方々に呼びかけて、講演と懇談の夕べ「学校給食が子どもと地域を育てる」をテーマとして企画し、組織拡大に役立たいと思いました。

当初参加者30名程度の目標で取組みましたが、突然の小泉内閣クーデターの衆議院解散総選挙が行われ、8月30日は公示日にあってしまいましたので、結局出席者は10名程度でした。講演は非常に深い内容で、「学校給

食が子どもと地域を育てる」の演題ははじめてでしたが、給食作業で働く職員の方々5名の参加は新しい財産になりました。

八戸市は本年6月定例市議会で指定管理者制度の導入で条例改定など決定し、準備が開始されました。八戸市は当面「清掃工場」、給食センターは現在直営を維持していますが、将来指定管理者制度の導入を否定してはおりません。それは小泉構造改革路線をみれば明らかです。その意味では今回の講演は意義のあるものでした。

三八地域での今後の活動も、機会をとらえて進めていきたいと思っています。

第6回定期総会は1月28日に

第6回定期総会を下記のとおり実施することにしました。いまから予定しておいてください。

日時：06年1月28日午後1時
場所：県民福祉プラザ 多目的室1

会費の納入をお願いします。

2005年度未納の方、および2004年度以前の未納の方はよろしくをお願いします。

青森県地域自治体問題研究所 会報

2005年12月22日 第29号

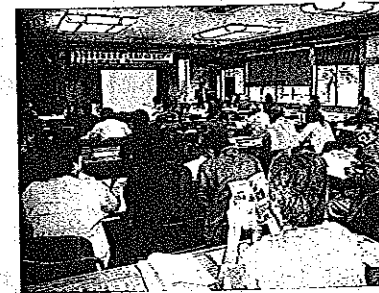
【事務局】弘前大学農学部生命科学部 神田健策

〒036-8224 弘前市文京町3 TEL 0172-39-3828

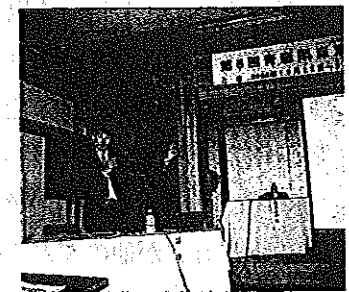
自治研

第5回自治体・地域づくり セミナー開かれる。

第1日目は午後1時半から、弘前大学地域づくり研究会で、岩手大学大学院連合農学研究科大学院生の成田拓未氏による「持続可能な地域社会形成と地域資源の発掘・再評価に関する事例研究」と題する記念講演が行われました。



10月22日(土)、23日(日)の二日間、自治研と第5回自治体地域づくりセミナー実行委員会の共催で、五所川原の津軽富士見ランドホテルにおいて、第5回自治体・地域づくりセミナーが開かれました。



講演の中で成田氏は「弘前大学は自治体と協力し、地域の発展に貢献しようという試みをしている。今回饒ヶ沢と協定を締結したが、それは、①産業振興、②文化育成、発展、③

◆改憲と自治体民間化への対抗構想を拓く—

第31回 自治体政策 セミナー in 横浜

2006.2.
3(金)~5(日)

●1日目記念講演
憲法改正・地方自治構造改革の
ねらいと対抗構想
講師：後藤道夫氏(都留文科大学)

●2日目専科
A. 「三位一体の改革」と自治体財政
▶ 森 裕之氏(立命館大学)
B. 社会保障構造改革と地域福祉の課題
▶ 浅井春夫氏(立教大学)
C. 公共事業・公契約の改革から地域経済社会の再生へ
▶ 永山利和氏(日本大学)
D. 指定管理者制度と市場化テスト
▶ 城塚健之氏(自治体アウトソーシング研究会・弁護士)
E. 自治基本条例と住民参加・議会改革
▶ 池上洋通氏(自治体問題研究所)
F. これならできる市町村財政分析—基礎と活用
▶ 大和田一雄氏(埼玉大学)

●3日目特別講演
安全・安心なまちを子ども達へ
講師：中村 攻氏(千葉大学)

1日目夜交流会(横浜中華街)/2日日夜「まち研」シンポ

ところ：横浜市「横浜市教育会館」ほか
参加費：15000円(会員)、18000円(住民と自治体誌等・一般、日替)

主催・自治体問題研究所 TEL03-3235-5941 FAX03-3235-5933
*詳しくはリーフレットをご請求下さい